

# 令和7年度 長崎県 英語教育改善プラン

## 目標

積極的にコミュニケーションを図り、英語で自分の考えや気持ちなどを発信することを  
楽しむ児童の育成を目指す。

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他  
(パフォーマンステスト含む) (専科教員含む) (AIを除く)

## 1. 目標に対する現状

### 改善が進んだ点

① 言語活動について  
研修受講者へのアンケートの結果から、「目的／相手意識」等、授業改善のポイントの理解が進んだことが伺える。

② 発信力の向上について  
先進モデル校においては、児童の発信力の向上が見られた。

### 未だ改善が必要な点

① 指導と評価の一体化  
研修会の演習の様子から言語活動の内容や技能等と、パフォーマンステストの内容や技能等との整合性に課題が見られる。

## 2. 要因分析

① R5から3か年計画で「アップデート研修」を実施。言語活動を通して資質・能力の育成を図る授業作りや、学習到達目標への意識の向上が見られたことが要因と考えられる。

② R5から行っている先進モデル校指定事業において、先進モデル校での授業における言語活動の充実が図られたことが要因と考えられる。

① 言語活動については一定の改善が進んでいる。一方、CAN-DOリスト活用の意義や単元末・学期末のパフォーマンステストのゴールが意識されていない言語活動が見受けられる。

## 3. 目標を達成するための施策・事業

R5～R7年度「Believe You Can」英語発信力強化事業を展開している  
＜アップデート研修（3年間12地区）＞

学習到達目標の活用に係る講義及び演習の中で、学習状況を適切に把握するためのパフォーマンステストを研修内容として扱い、効果的な実施・評価を促進する。

＜先進モデル校指定事業（1校）＞

グローバル人材育成を目指し、先進モデル校において異文化交流など先進的な取組を含む研究を行う。児童の意欲向上につながる取組等を県内に広く発信する。

＜グローバル人材育成協議会（年2回）＞

＊県内各市町教育委員会の外国語担当者・大学教授等によって構成。  
・アップデート研修の内容や市町の取組の好事例について共有を図る。  
・児童の発信力向上につながる先進モデル校の取組を共有し、県内で実践を広げていく。

【施策・事業】

第四期長崎県教育振興基本計画【2024（令和6）～2028（令和10）年度】

【長崎県公立学校教員採用選考試験の改革】

①英語の外部試験資格を所持する受験者及び中学校教員免許を所持する受験者に加点制度を設けている。  
②令和8年度より小学校英語専科としての採用を予定している。

# 令和7年度 長崎県 英語教育改善プラン

## 目標

国際社会で活躍できる人材の育成に向けて、積極的に英語でコミュニケーションを図り、自分の考えや気持ちなどを主体的に発信することができる生徒の育成を目指す。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R6：47.2% ⇒ R7：60%）

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他  
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

## 1. 目標に対する現状

### 改善が進んだ点

- ① 言語活動について  
R6全国学力・学習状況調査 生徒質問調査の「英語で書く活動が行われているか」の項目が全国平均以上。
- ② 先進モデル校において「書く活動が楽しい」と答えた生徒が増加傾向。  
\*本県実施の学校運営調査より

### 未だ改善が必要な点

- ① 生徒の英語力  
R6：47.2%（前年比▲1.4）  
（R6全国比▲5.2）
- ② 本県の重点課題  
自分の考えをまとまりのある英文で書くことは依然として改善が見られない。
- ③ 指導と評価の一体化  
言語活動の内容や技能等と、パフォーマンステストの内容や技能等との整合性に課題が見られる。

## 2. 要因分析

- ① 「書く活動」の有用性や実践例を、研修会や学力UP通信等で、継続的に発信したことが一因だと考えられる。
- ② 先進モデル校における異文化交流等の取組の成果と考えられる。

- ① CEFR A1相当以上の生徒の割合について、地域間・学校間の差が見られる。本県の重点課題の改善を意識した授業が十分になされていない可能性が考えられる。
- ② 生徒の主体的な学びにつながるような目的や場面、状況の設定が不十分であることが考えられる。
- ③ 従来の一斉指導や筆記テスト中心の評価からの脱却等、教員の意識改革や、ゴールを見据えた単元計画及びPDCAを意識した指導が十分でないことが考えられる。

## 3. 目標を達成するための施策・事業

### R5～R7年度「Believe You Can」英語発信力強化事業の展開

#### <授業改善研修会>（3年間5地区を2回ずつ）

##### ①①②

- ・「書くこと」に留まらず、「話したことを書く」、「聞いたり読んだりして知ったことについて書く」といった技能統合型の言語活動の重要性を伝え、英語で表現したり、伝え合ったりするための授業改善を図る。
- ・生徒の主体性を引き出す場面の設定について研修する。
- ・言語活動を行う際のポイントとして「教師の英語使用」の有効性等を取り上げ、活動内容のさらなる充実につなげる。

##### ③

- ・言語活動の内容や技能等がパフォーマンステストの内容や技能等と整合性がとれているかという視点で研修や指導助言を行う。

#### <グローバル人材育成協議会>（年2回）

\* 県内各市町教育委員会の外国語担当者・大学教授等によって構成。

##### ②

- ・先進モデル校の取組事例を県下小・中学校に周知する。

##### ①②

- ・「発信力の強化」を県の課題とし、各市町で実態に応じた取組を設定。年度末に評価を行う。好事例を共有するなど、取組の学び合いを行う。

#### 【施策・事業】

第四期長崎県教育振興基本計画【2024（令和6）～2028（令和10）年度】

# 令和7年度 長崎県 英語教育改善プラン

## 目標

英語をコミュニケーションツールとして国際社会で活躍できる人材の育成を目指す。  
ICT機器等を活用しながら英語の「読む、書く、聞く、話す」の4つの技能をバランスよく育むとともに、コミュニケーションを図る資質・能力を育成する。

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 R7 : A2以上 53%、 B1以上 22%

☒言語活動 ☒指導と評価の一体化 ☐教師の英語力・指導力 ☐校種間連携 ☒ALTの参画 ☒ICTの活用 ☐AIの活用 ☐その他  
(パフォーマンス含む) (AIを除く)

### 1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①英語担当教師の英語力について、昨年と比較するとCEFR B2、C1ともに割合が高くなっている。  
B2:R5 83.6%⇒R6 86.2%  
C1:R5 17.2%⇒R6 19.3%

①CEFRA2レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合依然として5割を下回っている。  
R5:45.2%⇒R6:44.7%  
②授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合は51.5%であり、本県の目標とする60%には届いていない。  
R5:54.4%⇒R6:51.5%  
\*全国平均は56.6%

### 2. 要因分析

①について  
「授業は英語で行うことを基本とする」という方針沿って、授業を計画、運営するにあたり、英語の使用頻度が増え、運用能力が向上したことが考えられる。また、英語学習アプリ等を用いての自主学習の機会が充実してきていることや、資格試験への意識の向上が考えられる。

①について  
外部試験受験者数が少ないことが要因の一つとして考えられる。  
②について  
パフォーマンステストの実施率は全国平均と比較して高い水準を維持しているものの、授業における生徒の英語による言語活動の割合は低く、授業内容の工夫と指導と評価の一体化に向けての改善が必要であると考えられる。

### 3. 目標を達成するための施策・事業

①について  
文部科学省主催の「教師の英語力・指導力の向上のための実践的オンライン研修」や「英語資格・検定試験の特別受験制度」を活用する。また、初任者研修や学校訪問、各種研修会などにおける指導助言の機会を活用し、授業における教師の英語の使用や、生徒の英語による言語活動の充実についての周知を図る。

◆“世界とつながるNAGASAKIグローバル人材育成事業”  
○オンデマンド配信教材による英語学習支援  
外部委託して作成したオンライン教材を活用し、高校生の英語学習の充実に向けた支援を行う。ICT端末を用いて、家庭学習や隙間時間などに英語の学習に取り組む支援とする。また、中学生への支援にもつなげていく。  
○メタバースを活用した外国語教育  
メタバース空間にて、ALTとの個別英会話や各種検定試験面接練習、外国人学生との交流イベントなどを実施する。  
○国内短期留学プログラム（テンブル大学ジャパンキャンパスとの連携）  
テンブル大学ジャパンキャンパス京都にて4日間の英語学習プログラムを実施する。

① ②について  
引き続き英語教育の充実を図り、生徒が相応の英語力を身に着けるようにしていく。そのために、英語担当教諭への情報提供や情報交換を引き続き行う。また、令和6年度から本県に配置されている英語の指導教諭と昨年度に引き続き、初任者研修や各学校への訪問等を一緒に計画していくことで本県全体の英語教育の充実を図る。

目標達成状況一覧表

長崎県教育委員会

| 校種   | 指標内容                                | 2023       |      | 2024 |      | 2025 |     | 2026 |     | 2027 |     |  |
|------|-------------------------------------|------------|------|------|------|------|-----|------|-----|------|-----|--|
|      |                                     | 目標値        | 達成値  | 目標値  | 達成値  | 目標値  | 達成値 | 目標値  | 達成値 | 目標値  | 達成値 |  |
| 高等学校 | ①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)     | 50         | 45.2 | 50   | 44.7 | 53   |     | 57   |     | 60   |     |  |
|      | ①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)     | 22         | 16.5 | 22   | 18.4 | 22   |     | 22   |     | 22   |     |  |
|      | ②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)          | 65         | 54.4 | 65   | 51.5 | 65   |     | 65   |     | 65   |     |  |
|      | ③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)   | 50         | 84.3 | 90   | 53.5 | 90   |     | 90   |     | 90   |     |  |
|      | ④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況        | 設定(%)      | 100  | 100  | 100  |      | 100 |      | 100 |      | 100 |  |
|      |                                     | 公表(%)      | 60   | 50.7 | 60   |      | 60  |      | 60  |      | 60  |  |
|      |                                     | 達成状況の把握(%) | 70   | 60   | 70   |      | 70  |      | 70  |      | 70  |  |
|      | ⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%) | 84         | 83.6 | 85   | 86.2 | 85   |     | 85   |     | 85   |     |  |
|      | ⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)             | 70         | 30.5 | 70   | 37.4 | 70   |     | 70   |     | 70   |     |  |

| 校種  | 指標内容                                | 2023       |      | 2024 |      | 2025 |     | 2026 |     | 2027 |     |  |
|-----|-------------------------------------|------------|------|------|------|------|-----|------|-----|------|-----|--|
|     |                                     | 目標値        | 達成値  | 目標値  | 達成値  | 目標値  | 達成値 | 目標値  | 達成値 | 目標値  | 達成値 |  |
| 中学校 | ①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)     | 60         | 48.6 | 60   | 47.2 | 60   |     | 60   |     | 60   |     |  |
|     | ②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)          | 100        | 73.2 | 100  |      | 100  |     | 100  |     | 100  |     |  |
|     | ③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)   | 100        | 88.2 | 100  |      | 100  |     | 100  |     | 100  |     |  |
|     | ④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況        | 設定(%)      | 100  | 95.8 | 100  |      | 100 |      | 100 |      | 100 |  |
|     |                                     | 公表(%)      | 55   | 52.7 | 55   |      | 60  |      | 65  |      | 70  |  |
|     |                                     | 達成状況の把握(%) | 100  | 71.3 | 100  |      | 100 |      | 100 |      | 100 |  |
|     | ⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%) | 50         | 41.9 | 50   | 40.1 | 50   |     | 50   |     | 50   |     |  |
|     | ⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)             | 100        | 59.3 | 100  |      | 100  |     | 100  |     | 100  |     |  |

|     |                             |            | 2023 |      | 2024 |     | 2025 |     | 2026 |     | 2027 |     |
|-----|-----------------------------|------------|------|------|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|
| 校種  |                             | 指標内容       | 目標値  | 達成値  | 目標値  | 達成値 | 目標値  | 達成値 | 目標値  | 達成値 | 目標値  | 達成値 |
| 小学校 | 「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況 | 設定(%)      | 80   | 60.5 | 80   |     | 80   |     | 85   |     | 90   |     |
|     |                             | 公表(%)      | 35   | 23.7 | 35   |     | 40   |     | 45   |     | 50   |     |
|     |                             | 達成状況の把握(%) | 80   | 49.7 | 80   |     | 80   |     | 85   |     | 90   |     |